

児童の安全を見守り続ける

児童の安全を願って 続ける見守り活動

「おはよう。今日も1日頑張ってるね」。

児童たちの登校時間、広小の通学路から優しく温かい声が聞こえます。この声の主は、児童の見守り活動を長年続けている稲塚武俊さんです。いつから活動を始めたのか尋ねると、「十数年前になると思います、はつきりとは覚えていません。老人会の広安校区会長をしていた時、他の会員と共に自主的に始めたのがきっかけです」と教えてくれました。「今は町内各地で見守り活動が行われていますが、当時はあまり行われていなかったと思います」。

その後、会長を辞してからも開校日にはほとんど毎日、1人で活動を続けているそうです。雨の日でも、寒く凍える朝でも……。

稲塚さんが見守る通学路は、70〜80人の児童が登校して行きます。そして立っている交差点には、多くの車両が往来

しています。稲塚さんは、車両と児童の動向を注意深く確認しながら、事故が起きないように慎重に誘導しています。

子どもたちの笑顔が 元気の源

稲塚さんは児童たちの登校を見守りながら、一人一人に丁寧に声を掛けます。すると児童も、「おはようございませう」と元気な声であいさつを返します。「笑顔であいさつを返してくれることが、とてもうれしいです。その声を聞くために活動を続けているようなものです」と、稲塚さんも笑顔で話します。

まだまだ元気に活動している稲塚さんですが、この3月でなんと94歳。「歩ける間は、老骨にむち打って続けたいと思っています。私が子どもたちを見守っているというより、逆に元気をもらっているようなものです。完全にこの活動が生きがいになっています」と話してくれたように、いつまでも児童の安全を見守ってほしいと願っています。

下段写真／横断旗を掲げながら児童たちの登校を温かく見守る稲塚さん。登校時間は、通勤ラッシュと重なるため、かなり多くの車両が往来

